

蔵書印

— 当館所蔵本から —

平成3年7月25日(木)～8月27日(火)

書物に印を捺し所有を表すことは、古くから行われてきました。当館所蔵本の中にも蔵書印記のある資料が数多く見られ、「国立国会図書館月報」の蔵書印欄で順次それらを紹介しています。今回はある程度まとまって当館に入った、個人あるいは機関の旧蔵書の中から印記の何点かを選び、あわせて蔵書の特徴とその旧蔵者を紹介するものです。

1. 亀田次郎 1876—1944

国語学史 保科孝一講述【亀田次郎手写】明治33—36 <810.12-H692k-k>

国語学者。日本語の音韻や口語法の調査に尽力し国語学史の研究でも有名

昭和24年から29年にかけて、約3400点、6900冊を購入。国語学・言語学関係のコレクション。

その全容は「亀田次郎旧蔵書目録」(1960)によって知られる

2. 弥富破摩雄 1878—1948

言語に映じたる原人の思想 金沢庄三郎著 大鐙閣 大正9 <819-Ka373g>

上代日本文学史 武田祐吉著 博文館 昭和5 <910.22-Ta486z>

国語・国文学者。旧制弘前高等学校教授を勤め、中島広足の研究に業績を残す。一時期、皇子伝育官を勤め、皇室との関係は深く、若き日の昭和天皇との相撲の写真はよく知られている

昭和24～28年に国文学関係資料850点1900冊を購入

3. 塩田三郎 1843—1889

History of civilization in England. Henry Thomas Buckle.

New York : D. Appleton, 1891 <H-29>

幕末・明治の外交官。フランス語をカシオンより学び、特に幕末期の日仏外交の場で活躍。英語にも堪能であった

明治25年、その蔵書のうち、英書約750冊が当館の前身、東京図書館に寄贈された。その一部

は「参考書誌研究 24 号」(1987)に紹介されている

4. 播磨権吉 1883—1952

ПУТЕШЕСТВИЕ ВОКРУГЪ СВѢТА ВЪ 1803, 4, БИ 1806 ГОДАХЪ

クルーゼンシュテルン著「世界周航記」(1809—13 ペテルブルグ) <910.4-K94p>

時事新報社特派員として第一次大戦から革命時代にかけて、ペテルブルグ(現レニングラード)に滞在。のちロシア史研究に従事

昭和 28 年、ロシア語文献 1200 冊を購入。19 世紀後半から 1930 年代に刊行された歴史・地理・社会思想関係書物等が中心。日露交渉史関係も豊富である。旧蔵書は「播磨権吉旧蔵書目録」(1960)によって知られる

5. 渡辺泰三 1959 没

御曲輪朱引之図 写

<地方図乙13-339>

地図収集家。陸地測量部、早稲田大学図書館等に勤務

昭和 25 年、地図約 5600 枚を購入。幕末から昭和 20 年頃までに刊行されたもので、うち 4970 枚は陸地測量部等作成の各種地形図

6. 有松英義 1863—1927

萬治制法(長周叢書11) 稲垣常三郎 明治24

<5-1>

内務省警保局長、三重県知事、枢密院書記官長等を歴任

衆議院書記官であった嗣子昇の衆議院図書館への寄贈本約 3000 冊。昭和 23 年当館へ移管。1660 年～1870 年頃の版本・写本類が主で、漢籍と国書がほぼ半々である。教養書・実用書が多い。旧蔵書は「衆議院図書館所蔵有松文庫図書目録」(1933)によって知られる

7. 立憲民政党政務調査館

新しい政治制度の字引 河瀬蘇北著 実業之日本社 大正13

<A112-60>

我が国最初の政党附属図書館。昭和 8 年 12 月、立憲民政党本部構内に創設される

当時の国の政策立案に有用な資料を収蔵。当館には、昭和 39 年寄贈され、一般に櫻田文庫と称されている

8. 加藤 誠 1911—1987

「ミロの世界」展 朝日新聞社東京本社企画第1部編 朝日新聞社 昭和61

< KC16-E2229 >

エゴン・シーレとウィーン世紀末 神奈川県立近代美術館編

東京新聞 昭和61

< KC16-1903 >

出版社(光文社)に長く勤務。

